

## 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡南部特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	14人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	体幹固定クッション
使用学年及び人数	全校児童生徒 14人
使用頻度	週2回、毎日
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問教育で家庭に訪問し、授業を行う際に毎回使用している。仰臥位になるときに足に挟み、体の力を抜いた楽な姿勢がとれるようにしている。また、側臥位での学習で、姿勢を保持できるよう、背中に挟んでいる。</li> <li>・ 訪問教育の児童生徒が学校に来校し、エアベッドに寝る際、仰臥位がとれるように足に挟みました。</li> <li>・ 体育であぐら座位をとるときにお尻の下に入れ、座位を保持した。</li> <li>・ 日常生活で、身体の保護を目的に使用した。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体操では体の力を抜き、手や足など教師が触っている部位に気持ちを向け、体を動かした。読み聞かせでは、絵本に注目し、話のクライマックスで大きな声を上げる姿があった。</li> <li>・ スノーズレンでは、リラックスした姿勢で光や音の刺激を多く受け、いつもよりも頻繁に笑顔を見せ、楽しんでいた。</li> <li>・ 普段は体が傾いてしまうことが多い生徒が、体感固定クッションを使用することで骨盤が上がって姿勢が整い、相手を見てボールをパスしたりゴールに転がしたりすることができた。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒が姿勢の安定を図ることで教材に視線を向けやすくなり、学習に集中して取り組むことができるようになった。また、腕が使いやすくなり、活動に対してますます意欲が高まった。</li> <li>・ この体感固定クッションは、児童生徒の体に沿い、長さや厚みを調整して使うことができるため、大変有用である。</li> <li>・ 今後、様々な使い方を探り続け、他の児童生徒にも活用できるようにしていきたい。</li> </ul>
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も、大切に活用させていただきたいと思う。</li> </ul>

## 2. 活用の様子



国語の授業で、絵本の読み聞かせをする際、背中や足に挟んでいる。姿勢を保持することで絵本に注目し、お話を聞いて楽しむことができた。



スノーズレンで使用した。足に挟んで姿勢を整えることで体の力を抜き、リラックスして光や音の世界を味わうことができています。



バレーボールを応用した活動を行った。座位を保つことで、腕が動きやすくなった。また、手元を見てボールを持ち、投げることができた。



外くるぶしが車いすのフレームに当たって時々痛みを感じている生徒のクッションとして活用した。直接外くるぶしがフレームに当たることなく、痛みを訴えることが無くなった。